学校番号	１１２

令和２年度　地理歴史・公民科

教科	地理歴史	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	日本史Ａ 現代からの歴史　（東京書籍）						
副教材等	図説　日本史通覧　（帝国書院）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史を学ぶ上での「過去を学ぶことで現代を学ぶ」という考えの元、特に近現代以降に焦点を置き今起きている問題などに注目し改めて考えることを促す授業を心がけます。その点から、常日頃から新聞やネットニュースなど情報を受け取る意識を心がけてください。
自主的に学ぶことから改めて疑問や意見は生まれます。それを自ら調べたり教員に聞いたりして、解決していくことでさらに学びは深まります。

2　学習の到達目標

・日本史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察する。
・日本の文化と伝統の特色についての認識を深める。
・歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日本史の学習を暗記ではなく、歴史的事実や現象に関心をもち、世界との関わりやその影響を意識しつつ意欲的にそれらを探求する態度を身につける努力をしている。	歴史の事象や歴史の構造に問題を見いだし、分析した上で、総合的に考察できる。現代に生きる一人の人間として意見を表現することができる。	日本の歴史の展開に関する諸資料や現代に関連した資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、関連付けて世界との関わりやその影響を総合的に理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	・提出物での評価 ・受講状況観察	・期考査 ・提出物での評価 ・受講状況観察	・定期考査 ・提出物での評価	・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	第3章 二つの世界大戦と日本	1第一次世界大戦と帝国日本 2政党政治の時代 3軍国日本への道 4太平洋戦争	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a：満州事変が日中戦争に発展した経緯と，日本が中国との講和交渉の道を閉ざし，日中戦争が長期化していく過程について理解している。 b：第一次世界大戦の時期に，日本が中国への侵略を進めた経緯を学び，そのことが日本と中国や欧米列強との関係に与えた影響について考察したことを表現しようとしている。 b：ヨーロッパ情勢が変化する中で日本がドイツとの関係を深めたこと，中国で国共合作を模索する動きが強まっていたことと，日中全面戦争との関連を考察したことを表現しようとしている。 d：大日本帝国について，人々がどのような理由，規模で移動したのかを学び，大日本帝国の実態，それを構成した人々の生活について理解している。 c：第二次世界大戦が始まると，ドイツとの同盟を強めることで英米との戦争も辞さないという空気が高まったことが日米開戦につながったことを理解し，太平洋戦争の経緯を理解している。 d：戦局が悪化した後も，戦争を継続させたことが，国内・占領地での過酷な動員や徴発による人々の暮らしの圧迫や，米軍の本土空襲による大きな被害につながったことを理解している。	・定期考査 ・提出物での評価 ・定期な小テスト ・受講状況観察

2	第４章 第二次世界大戦後の国際社会と日本	１ 現代世界の開幕と日本の戦後改革 ２ 高度経済成長の時代	○ ○	○ ○	○ ○	○	b：沖縄戦の実態を学び，なぜ住民に大きな被害が出たのか考察したことを表現しようとしている。 d：平和を模索する動きの中から国際連合が成立した一方，アメリカとソ連を二つの極とする東西冷戦が始まったことを理解している。 c：敗戦により日本の領土が縮小したことにともなう人々の移動について理解している。 d：冷戦下で東アジアの再編が進められたため，民族分断を余儀なくされた国があったことを理解している。 b:GHQ の指令を受けて進められた民主化及び非軍事化の内容と経緯について学び，GHQ の改革が戦後の日本社会に与えた影響について考察したことを表現しようとしている。 c:日本国憲法制定の経緯と三原則について理解し，新憲法に基づいて，多くの法律の改正や制定が行われ，改革が進められたことを理解している。 a：戦後社会が直面した危機的な状況を学び，そうした危機的な状況の中にあっても，自由と平和のもとで人々は活発に活動するようになり，大衆文化が復興したほか，学問や言論の分野でも進展が見られたことを理解している。 d：冷戦下で日米政府が，日本の経済再建を優先することで合意したため，日本の国際経済に復帰する体制が整えられ，朝鮮戦争の特需により経済を復興させられた一方，政治は保守化し，労働運動も圧迫されたことを理解している。 a：朝鮮戦争の勃発など東西冷戦が激しくなる中，日本がアメリカ側の諸国のみとサンフランシスコ平和条約を調印し，独立を回復した経緯を理解している。 d：アメリカの影響下で，ソ連や韓国等と国交交渉を行い，国際社会に復帰していく経緯を理解する。 d：東西冷戦が続く中で防衛力が増強され，保守政党が合同して，保守派優位のもとで政治を安定させる 55 年体制が作られた経緯を理解している。 d：日米安全保障条約の改正を目指した政府の主張とそれに反対した人々の意見を整理し，安保条約が改定された経緯を理解している。 a：人権を守るために声をあげる人々が現れたことを理解している。 c：炭鉱の町から工場の町へと変化していったいわき市の例を参考にして，社会が大きく変容していった時代の地域について考察。したことを表現しようとしている。	・定期考査 ・提出物での評価 ・定期な小テスト ・受講状況観察

3	第5章 現代の世界と日本	1 国際秩序のゆらぎと経済大国日本 2 冷戦の終焉と日本	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a：経済成長を優先した結果公害などの社会問題が生じたため，環境や福祉，平和，女性差別の撤廃等に対する人々の関心が高まり，革新勢力への支持が高まったことを理解している。 a：ベトナム戦争への反発から沖縄の日本復帰を目指す運動が高まったにもかかわらず，基地負担を残す形で沖縄が日本に復帰した経緯を学習する。 d：冷戦構造に変化が生じる中，日本やアメリカと中華人民共和国との国交正常化が実現したことを理解している。 c：ブレトンウッズ体制の崩壊と石油危機により高度経済成長が終わると，英米では新自由主義が広がったこと，日本では企業の減量経営により安定成長が続いたことを理解している。 d：自民党が金権腐敗と派閥抗争への批判が高まる中でも政権を維持し，1980 年代には新自由主義の影響を受け行政改革を進めたことを理解している。 c：石油危機後も輸出を増加させ，欧米諸国との貿易摩擦を抱えながら経済成長を続けた日本で，バブル景気が発生し崩壊した経緯を理解し，当時の生活や文化を学ぶ。 b：電気街からサブカルチャーの街へと変化していった秋葉原について学び，地域の変容の要因について考察したことを表現しようとしている。 a：冷戦が終結した後，グローバル化が進展する一方，世界各地でナショナリズムが高まり地域紛争が多発する中，日米同盟が強化されてきたことを理解している。 b：冷戦終結後，EU や APEC などの地域統合・地域協力が目指される一方，東アジアでは冷戦時代の分断が継続し，地域の不安定要因となっていることを理解している。 d：冷戦後も沖縄の基地問題が解決されていないことを理解している。 d：バブル経済の崩壊とともに，政官財の癒着を生み出した自民党の長期政権への批判が高まり 55 年体制が崩壊したことを学び，その後，政界再編や構造改革が目指されてきた経緯を理解している。 a：バブル経済の崩壊後，公共事業などによる経済対策を行ったにもかかわらず，不況を克服できず，産業の空洞化と財政赤字の深刻化が進んだことを理解している。 b：新自由主義的な改革により，2002 年から長期の好況が続いたにもかかわらず，個人消費が伸びず日本社会の閉塞感が増していった要因について考察したことを表現しようとしている。 b：現在，世界で進行するグローバル化の意味を理解し，世界の中で日本が国内外で抱えている課題，果たすべき役割について考察したことを表現しようとしている。	・定期考査 ・提出物での評価 ・定期な小テスト ・受講状況観察